

学院通信 第285号



立教英國学院が大きく変わった2020年

コロナ感染であらゆる日常が変化を遂げた 2020年でしたが、イギリスにある本校でも様々なことが変わり、そしてそれがまた栄養になって多くの賜物をもたらしてくれた一年でもありました。

世界中で苦労を重ね、不安な毎日を送っている方々を思い、そしてまた尊い命を落とされた方々のご冥福をお祈りしながら、その人達の分まで一生懸命に生きていくことが今大切なのだと思います。

新しい日常が次のステージに繋がるような前向きな生徒たちの様子をこの「学院通信」を通して皆様にお伝えできれば何よりです。

Contents...

- * Christmas Message from Headmaster
- * Christmas Carolling by Rikkyo students
- * 新しい学びのカタチ
- * コロナに負けるな！ 生徒会チャレンジ！
- * ICTがもたらした新しい立教英國学院
- * High School 3 English Project
- * それでも変わらない立教



今年のクリスマスカードはWeb OPEN DAYのトップページを飾った高校2年生女子グループの作品です
(上の写真をクリックすると今年の学校クリスマスカードが拡大表示で見ることができます。)

Designed by S.Ohkura, S.Horie & R.Igarashi
(High School 2)

Christmas Message from Headmaster

This has been a particularly challenging year for Rikkyo School, and also for the whole world. At the start of 2020 who would have imagined that life would have changed so radically for everyone.

The first term from January to March passed relatively smoothly. The students managed to play a number of sports fixtures with other schools and enjoyed a trip to London in February.

Another new venture for Rikkyo School was a joint drama project with students from the Royal Grammar School in Guildford with superb performances of 'Alice' taking place in February.

Four H3 students spent a term at Collyer's College in Horsham, staying with local families, giving them the opportunity to enhance their English language skills and gain in-depth knowledge of the UK education system. And the homestay week in March was able to go ahead with 27 students staying with host families in the local area.

The Graduation Ceremony in March was scaled down and broadcast to parents and senior students who were unable to attend this year due to the Coronavirus pandemic.

Following the nationwide lockdown at the end of March and closure of UK schools due to the pandemic, Rikkyo School moved to online classes and remote learning for all the students. This was a new challenge for us, especially given the time difference between the UK and Japan. However, with new technology in place, we managed to continue teaching the students remotely until we were able to re-open the doors in September.

During the lockdown, our students took the initiative to engage in various activities from their homes, such as web online concerts, presentations about their contribution to the communities and self-introductions for our 56 new students. We all feel our big Rikkyo family, although we cannot actually engage face-to-face.

The relationship between Rikkyo and Collyer's College grows stronger during this difficult time. The research project about UK and Japan diet issues has been explored. The new Tanzania Project Phase 2 which helps Tanzanian women to establish their business has been discussed and in Phase 2 the involvement of our UK and Japan senior generations has been explored.

Engaging with local people is very important aspect for our school. The school lent its 400M track facilities to the British young elite athletes to train during the summer. We heard that some of them made very good progress at a recent international competition. We hope some of them will attend next year's Tokyo Olympics and show their excellence in the field. The School has also been working with the local community regarding the issue of the proposed Loxwood Clay Pit Excavation to help preserve this area of natural beauty.

It was good to see that the majority of students returned to Rikkyo in September. However, school life this term has been very different and the challenges have continued with teaching and boarding in bubble groups, Zoom meetings, reduced student activities, testing and self-isolation. Thankfully, we were able to keep all our students and staff safe from infection.

I know that many of you will have missed the annual Open Day and Christmas concert which sadly we have been unable to hold this year. A

Web Open Day was organised by our students union. They decided on "Future for our Society" as their Open Day message to the public. Each class chose their topics, such as After Covid-19, Racial Discrimination, Environmental Pollution and Loxwood Clay Pit Excavation. These messages have been shown on our school HP.

During lockdown we have put lots of effort into improving our ICT facilities and now we are ready to communicate with you through the ICT system. We are ready to have web courses for Origami, Japanese culture, language teaching, cooking etc with you. Please contact us and explore every possibility to engage with us until face-to-face engagement is possible once again.

As 2020 draws to a close, our hope now is that, with the news of vaccines to be rolled out, life will be able to return to some sort of normal in 2021.

I would like to thank you for your continued support, and wish you a Merry Christmas and best wishes for the New Year from all at Rikkyo School.

TORU OKANO
Headmaster


コロナに負けるな！ 生徒会チャレンジ

突然始まった1学期のオンライン授業。春休みが終わってもイギリスにある学校には帰ることができず、それでも先生方がなんとか頑張って予定通りに「オンライン」で始まった1学期でした。

初めはただただZoomで行われるインタラクティブ授業や、Googleクラスルームというアプリで行われるオンライン学習についていくのが精一杯でしたが、1学期も半ばを迎えると「オンライン」で生徒会が動き出しました。

大人たちが予想もしない方法で様々な活動を提案し実行していく子供達の想像力には驚くばかり。

たくさんの中学生を迎えた1学期でしたが、オンラインホームルームでもなかなか友達の名前を覚えることができなかった時、生徒会の「自己紹介企画」で学年を超えた新入生と知り合うことができました。また、それぞれの家で悶々とした気分でいた時に、毎学期行っていたスクールコンサートをオンラインで開催しよう！という生徒会の試みで、世界各地の生徒達が音楽で繋がることもできました。

可能性無限大の生徒たちによるチャレンジ企画。その中から、本校の生徒達が世界各地で録画したムービーを生徒自身の手で編集して仕上げたオンラインコンサートの様子をご覧ください。



Online School Concert

WEB オープンデイ〈立教史上初の試み〉

毎年10月に行われる本校最大の行事、「オープンデイ」。

地元のイギリス人の方々を始め、遠方からはるばるいらっしゃる保護者の方々など多くの人達が訪れ、生徒たちが創り出した様々な企画を日本語と英語で紹介します。日英文化の比較からダンスや劇など内容も様々。1学期から準備を始める一大イベントでした…ところが、今年はコロナ禍の為に1学期はオンライン学習で帰寮出来ず、2学期にやっと学校に戻れても様々な制約で、創立以来続いている「オープンデイ」は断念せざるを得ない状況となってしまいました。

でも、1学期のオンライン開校時から既に様々なオンライン企画を実行してきた今年の生徒会は、この状況でも諦めることなく、逆にこれを活かして新しい企画を打ち立てました。そしてそれが、ネット環境を最大限に利用した「WEB オープンデイ」でした。

折しも、学校は夏休みから本格的にはICT整備を進めており、この生徒会新企画を推し進める追い風となりました。

逆境にあってこそ様々なアイデアが浮かび、生徒たち皆が協力し、思いもしなかった力が出てきました。今までとは全く違うアプローチながら、オープンデイに向かう生徒たちの意気込みはこれまで何十年と先輩達が築いてきた「オープンデイ」と同じ勢いになり、短い準備期間ながら立派な新企画が完成しました。

学校のホームページとは別に、生徒たち自らが立ち上げたWEB オープンデイ特別サイトにその成果が散りばめられています。

下記リンクでご覧になりますので、是非ご訪問ください。

<https://rikkyo-school-in-england-open-day-2020-japanese-1.jimdosite.com/>

Web オープンデイ 生徒会長挨拶

1週間のブレイクを朝から晩までフル活用して完成した「立教史上初のWEB オープンデイ」の開会式が日曜日の午後行われました。

Youtubeにアップした開会式用の映像を各クラスのインタラクティブボードで同時再生し、臨場感あふれるスタートとなりました。

その映像の中から、本校生徒会長の開会挨拶をご紹介します。



2020 December

Every year our students spread Christmas cheer throughout the community, in particular Elmbridge Care Home, with the time honoured tradition of Christmas carolling. Unfortunately this year the ongoing pandemic has made it impossible to continue the tradition as usual, however; not wanting to let the community down in this time of need, our students have created a video so that they may continue the tradition according to the current social distancing protocols. We hope that the sound of these festive carols add a touch of joyfulness to your holiday season. Happy Christmas!



O come all ye faithful

Christmas Carolling

by Rikkyo students

COVID-19の影響で、例年Elmbridge のケアホームで行うキャロリングが中止せざるを得ない状況となりました。しかし、生徒たちは、毎年待っていてくださるケアホームの方々に自分たちの気持ちを伝えようと、キャロリング動画を作ることになりました。
この状況のもと、毎年同様のクリスマスは過ごせないかもしれません、ぜひ生徒たちの演奏や歌唱をお楽しみください。
動画は近隣のケアホームや教会にプレゼントする予定です。

ICTがもたらした新しい立教英國学院

1学期、オンライン学習という「特別体験」で生徒たちが学んだことも様々でしたが、立教という「学校」自体もこれを機に大きな変革を遂げました。

これまで細々と進められていた校内のICT化が、4月からの「オンライン授業」を契機に目覚ましいスピードで進み始めました。いち早くオンライン授業を決定し、インフラ整備からソフト面の対応まで様々なことを急ピッチで進め、そして何よりそれを使う「生徒」と「教員」が、様々な苦労を経つつも前向きに取り組んだことがこの大変革の原動力になりました。

1学期のオンライン学習が何とか無事終わると、間髪入れずに次のフェーズへの取り組みが始まりました。折角進み始めたICT化を更に推し進めつつ、またいつ「オンライン授業」に戻るかもわからない状況も鑑みながら、まずは生徒一人がコンピューターを持って学習に取り組む環境を整えました。もちろん校内全ての建物で光ファイバーのWi-Fi接続が利用できるようにし、各ホームルーム教室には大画面のインタラクティブボードも設置しました。

バブル毎の生活を余儀なくされる状況下では、オンラインで繋がっていることが様々な場面で役に立ちます。接触してはいけない学年同士での交流、遠い日本にいるオンライン学習者も参加できる授業、コロナ禍で全校生徒が一同に会することが出来ない中ZOOMで行う主日礼拝など、ICT機器を利用してネットで「繋がる」ことが出来るのがとても貴重であることを実感しています。

今後もオンラインを利用した学習や教育活動などさまざまな「挑戦」をしていくことができそうです。



文部科学省・日本人学校教育環境整備事業 立教英國学院の取り組み

コロナ禍で2020年度第1学期はイギリス本校は開校せず、他校に先駆けてオンライン授業をいち早く開始しましたが、これがきっかけとなり校内のICT化も急速に進みました。折しも、海外日本人学校における「非常時でも途切れないと学びの保障」を目的に文部科学省・日本人学校教育整備事業の呼びかけがあり、本校が目指す方向性と一致するこの事業への参加を決定。これが本校のICT化に拍車をかけるかたちで具体的な整備方法、運営計画を検討・推進する運びとなりました。

まず、オンライン授業が本格的に始まり、教職員のICT化への意識が高まってきたタイミングで、「将来ICT構想委員会」で話し合いを始めました。

ICT設備を整えることが目的ではなく、それを利用して「新しい教育」を目指し、このコロナ禍の窮地にあっても本校らしい教育を維持・向上するようなアイデアを練りました。本校がイギリスにある利点、生徒が世界各地にいる状況、日本から英語力向上・国際感覚を身につけたいという大志を持って集まる子供達、これらをICT環境整備の上にどのように載せていくか、そこから生まれた下記3つの柱を中心に構想をまとめました。

1. 児童生徒が安心して自主的に学べるオンライン学習環境の整備
2. STEAM教育による創造的な学びの機会と環境づくり
3. Onlineリバーラーニング教育を通した「学校の外」との繋がりの強化

この構想を元にまとめた実施計画が最終的に評価され、本校は文部科学省の同事業協力校として正式に認められました。すでに夏季休暇より計画に沿った形で本格的なICT環境の整備が始まり、2学期からはその環境を利用した教育活動・学校運営が始まっています。

*上記事業計画に沿った本校取り組みについての詳細は今後連載記事として本校ホームページでご紹介していく予定です。

ICTに関するアンケート結果

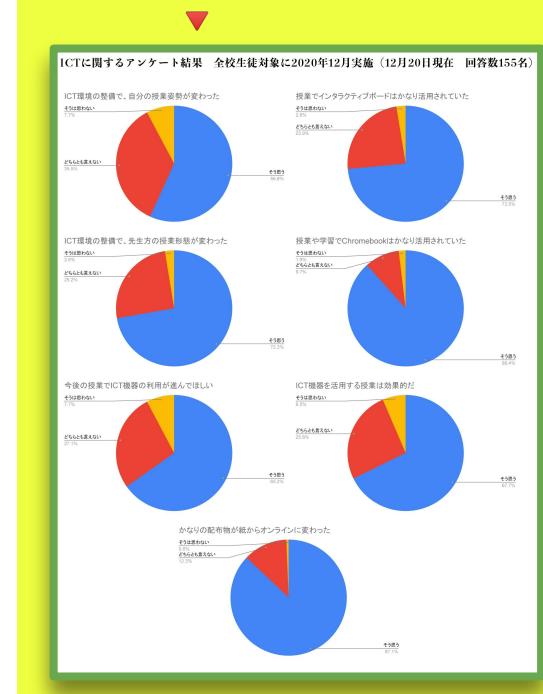
全校生徒対象 2020年12月実施(12月20日現在 回答数155名)

ICT環境の整備で学習方法・授業への取り組みが変わったと思う人は具体的にどのようなところが変わったか書いてください。

- 紙をたくさんめくって目的のものを探す時間が省かれ効率がよくなった。
- パソコンでの調べ物が増え、トライさんの授業とかも見ながら勉強するようになった
- ノートなどを持ち歩く量が減った
- 資料がChromebookにあるので、画面を見ながらの学習が増えた。
- 紙の配布がめっちゃ減った。
- 紙を探す無駄な時間が減った。
- 紙で欲しい物が手に入らなくなってしまったので、勉強しにくくなった。
- 自習もわざわざ教材を持ち歩く必要がなくなり、授業動画や、クラスルームに上がった動画を見返すなどの自習方法が増えました。
- 分からないところや関連記事に目を通す機会が増え、予備知識が伴うようになった。
- 授業が録画されて何度も見返す事ができるので、自習のときにとても勉強しやすく、理解度も上がったと思います。
- 通常なら教科書を参考にするところを、授業のパワーポイント見たり、動画を見たりと、復習がしやすくなったりと思う。
- すぐに調べられるようになったので、単元に関連することを学べた。
- ほとんどの課題がオンライン上になり提出状況や期限が見やすくなったり
- 授業ではグループで行うことが減ったり、ドキュメントやスライドを共有したりしたところ
- オンライン化になり、クラスルームなど、授業でインターネットやGoogleアプリを使うようになった
- 紙から勉強するのではなくて、ネットから勉強するところが変わった。それにより、とても効率的になったと思う。
- ちょっとユーチューブ見たくなっちゃう。
- 動画や画像などを活用することでより理解が深まった。
- 先生が白板で書くことがなくなり、自分たちがノートに書く時間が減ったり、書く時間がなかったりして授業後にやっておくというのはやめてほしい。
- 学習を効率的に行うことができるようになった。プリントなどの配布物もなくすことが無くなり、探すのもすぐにできる。物理的な重さもないため体への負荷も少なくて済む。
- 手書きが減った
- わからないことがあつたらその場で調べることができる。
- 紙がいつもより使わなくなった。
- 何度も動画を見ることが出来る
- chromebookで学習内容を確認したり、理解が曖昧なところを調べながら学習した。
- 先生の言ったことを全てメモしなくても後から見返せるようになったので、授業により集中できるようになった。
- 授業で使用する資料などが電子媒体になったので、少し不便に感じました。
- 紙での提出もあったがほとんどがオンラインでPCを見れば課題確認ができわかりやすかった。
- パソコンですべてやるようになった
- classroomなどでプリント類が少なくなり荷物が減ったと思う
- すべてがパソコンを使う授業になったので、作業が効率良く進むようになった。
- 提出物の方法や課題の出方が変わった

- ❖ 冬季休暇開始後全校生徒(189名)を対象にICTに関するアンケート調査をGoogleフォームで実施しました。
- ❖ 質問内容は、現在の学校のICT環境、今学期のICT機器を利用した授業やイベントについての感想、問題点、今後の要望など57項目。
- ❖ このページには、そのうち「今学期の授業・学習について」の全8項目をそのまま掲載しています。

先生の授業が変わった／自分の授業姿勢が変わった／紙を使わなくなった／ICT機器を使った授業は効果的／今後もICT機器の利用が進んで欲しい...etc.などの項目結果を円グラフにしました。クリックすると拡大表示されます。



新しい学びのカタチ

現地校との共同プロジェクト、ケンブリッジ大学での毎学期末の研修、提携校 Collyer's Collegeへの学期留学など、ここ数年勢いを増してきた本校の国際交流プロジェクト。

コロナ禍でも新しいカタチで、校内ICT化の追い風を受けながら本校ならではの「学び」が進んでいます。

英語科プロジェクト (英語で環境問題に取組む)

高等部3年英語は、初の試みとして「英語で調べ、英語で話し合い、英語でまとめて、英語で発表する」プロジェクトを今年度より導入しました。受験英語を鍛えるよりむしろ、大学に入ってから「使える」英語を意識して磨き上げようという試みです。テーマは環境問題。少人数のグループに分かれて調査・制作・発表をしました。その中から発表ムービーを2つご紹介します。
(参加生徒の感想は次ページに掲載)

Species extinction



Confronting the Crisis on Earth



地域社会との共同活動

“Forest”

Role of the forest

The forest gives us comfort. They allow us to sunbathe, exercise, refresh ourselves.

There are many kinds of insect animals, and no two landscapes alike, even if they are similar.

31% of Earth's land surface is covered by forests.



Public footpath

Ecology

メインテーマ「世界の明日のために」を掲げながら、今立教生が世界に向けて発信するメッセージ。生徒会とOpen Day 2020 実行委員会が地元環境保全グループと懇談して作りあげた作品”Forest”をご紹介します。

タンザニアプロジェクト フェイズ2 Tanzania Project Phase2

タンザニア女性自立のための起業プロジェクトは、今まで、タンザニア、Collyers Collegeと立教英國学院の共同プログラムとして行われて来ました。今回新たに、このプログラムに日英のシニア世代を引き込んだ新たなプログラムが始まります。

若い世代の交流プログラムにコロナ禍で孤立するシニア世代の特技を活かした新たなプログラムを紹介します。

Our grandparents generation



H3 ENGLISH PROJECT



2020年度の高校3年生の英語の授業では、1、2学期を通して「環境問題」をテーマに様々な切り口から地球環境について考えてきました。

レベル別に4クラスに別れて、それぞれの先生のもとで授業に取り組んできましたが、2学期末の授業では、学年全員で集まり、英語でのプレゼンテーションを行いました。

高校3年生の感想(英語エッセイ)をご紹介します。

* * * * *

My teacher has taught me many environmental issues in school, but this term's class on environmental problems was one of the classes in which I have learned the most about it.

During the holidays, I made a poster focusing on Transition Town and Zero Garbage Day. I was impressed by the transition town activity as I didn't know about it before being taught in this term. When I heard about the environmental problems, I imagined reducing garbage and carbon dioxide; however, I found out that in Transition Town, in order to stop depending on oil, preventing the progress of environmental destruction and shifting to a sustainable society, citizens voluntarily think about local life and act with consciousness every day.

Also, after coming to school, I was able to listen to everyone's presentations. This led to a deeper understanding of various environmental problems. In my friend's presentation, I was surprised that vegans are also involved in cosmetics. She presented LUSH as an example. This was a shop I had visited, so when I learned that the shop was working on solving environmental problems, it made me more determined to pay attention to more things when shopping and the next time I go to LUSH.

We constantly produce garbage, so I think it's important to keep in mind when throwing away trash and buying new things. Therefore, I would like to work not only on 3Rs but also on 6Rs, which aims to reduce plastic waste. I think it is especially important to reduce plastic waste to protect the future of the sea. For example, avoid getting plastic bags when shopping, or use your own bottles instead of plastic bottles. Now that coronavirus is prevalent, I think that using a reusable bag or water bottle will prevent infection because there is less contact.

In conclusion, I would like to act to protect the environment, even if it is trivial, in order to make the world a comfortable place to live in the future.

それでも変わらない立教

いろいろなことが変わった新しい「立教生活」…
それでも変わらない「何か」がここにはある。
そんな思いを綴った生徒達の作文をご紹介します。



「なんだこの立教は！」

なんて思いつつも到着した「新・立教」。バブルやソーシャルディスタンスなどといったシステムが導入された立教を見ると、少し残念になるけれど、ウイルス対策を重視してくれたことには感謝の気持ちでいっぱいだった。

新しい生活が始まるとともに、ドミトリーのメンバーとも段々と仲良くなっていた。毎日の授業後の「ちょっとまってくれー」や「一緒にブレイク行こう」などと言ったシンプルな会話もこんな状況で普通にできていて嬉しかった。一番の思い出は、ある友達と僕が背比べして、鏡の前に並んだら目が合ってしまい笑ってしまったことである。なにが思い出かと言うと、こうして自分の努力で作ってきた友達と普通に関わって友達と笑えるのが単純に嬉しかった。それは、このウイルスが原因で起きた無差別問題や酷いじめ、そしてこの状況における戦争、紛争が周りで現在進行形に起っているからである。規制が厳しくなってしまった「新・立教」であるが、自分の今の立場や生活を考えると幸せであるように思える。

少し暗い話ばかりであるが、ドミトリーのメンバーはみんな賑やかで最高である。夜に歌を歌って怒られたり、みんなで対戦ゲームをしたり、友達づくりを積極的に行った。高校一年生の生徒人数は学校一になるほど多いので少しばかり不安ではあったが、毎日笑いすぎてお腹が筋肉痛になるぐらいの関係だったので安心して生活できている。大事な友達を見つけられた、充実した立教生活である。これからもそうなるように、まだまだ友達づくりが終わってしまわないように努力していきたい。

(高等部1年生 男子)

他の作文へのリンク

- * [一つだけすぐにでもしたいこと\(中学部2年生女子\)](#)
- * [初めての立教英国学院での生活\(高等部1年生女子\)](#)
- * [すべてが宝物\(中学部2年生男子\)](#)

Information

ご意見・ご感想は[こちら](#)へどうぞ。

▶▶ publicrelations@rikkyo.ac.uk